フィッシング報知

# 56年の歴史に幕 今までありがとうございました

## 「第56回報知キス釣り選手権・SESSYA CUP」決勝大会

## 高井選手無欲の選手権V

▲▲「第56回報知キス釣り選手権・SESSYA CUP」優勝の高井選手を中央に2位・猪熊選手（右）と3位・須田選手（下）決勝戦で会心の4連！　リードを広げた高井選手

**第56回優勝　高井純一（33・米子市）キス研岡山**

折れかけた心を立て直した。7日に開催された「ダイワキスマスターズ決勝大会」で3位に終わり、「悔しさが尾を引き、この日まで釣りをしなかった。今回は楽しめばいい」と無欲で臨んだ一戦だった。しかし、試合が進むにつれ勝負師の闘争本能がヒートアップ。悔しさを力に変え、一気に頂点を極めた。

会場はなじみ深い地元の弓ケ浜だ。久々に握った竿の感触を確かめるようにキャストした。1回戦は、2～1色でアタリを取ると「本来の自分の釣りを取り戻した感じがした」とスイッチが入った。粘り強く近辺を探って9尾を釣り、5位タイで突破。

決勝戦はさらにギアを上げた。「釣れた場所にしか魚はいない」と1回戦でつかんだヒントを手掛かりに、3色辺りからさびき始めた。そしてキスの居場所を確認すると、その一点を集中的に攻略。20尾を仕留め、鳥取県勢としては第33回大会の健代利夫選手以来23年ぶりの優勝をもたらした。

キス釣りを始めたのは高校2年生。名手・横山武さんとの出会いがきっかけだ。チームの仲間と釣りを学び、腕を磨いた。「今あるのも仲間のおかげ」と感謝する。引き続き行われた名人戦は、ポイントを絞り切れず敗れたが、自分の釣りをやり通した3試合だった。そして、「スペシャリストが集まったこの大会に勝てたことは、今後の釣り人生の自信になった」と更なる飛躍を誓った。

### 今後の釣り人生の自信になった

### 佐藤選手「まず1勝」

福井予選を突破し、念願だった決勝大会に出場した佐藤宏依選手（44・石川鱚酔会、NMF）。その予選を振り返り、「こんなに本気で勝ちたいと思った試合はなかった」と気持ちでつかんだ夢の舞台だ。キス釣りとの出会いは7年前。投げ終えた竿を手渡され、リールを巻いていると竿先が震えた。手に伝わるその振動が心地よく、夢中でキスを追った。今大会は残念ながら1回戦で敗退した。それでも、「結果より頑張る姿を見てもらえたことがうれしい」と切磋琢磨した仲間に感謝しかできた。これからも続く選手生活はまだ夢半ば。「まず1勝」を目標に、一段ずつ上った階段の先に広がる見たことのない景色に思いをはせた。

▲▲アタリを願い慎重にリールを巻く佐藤宏依選手

◇決勝戦の成績◇

| 順位 | 選手 | 尾数 | 最長（寸） |
|---|---|---|---|
| ① | 高井純一（米子市） | 20 | 15.2 |
| ② | 猪熊洋典（鳥取） | 15 | 8.7 |
| ③ | 須田国博（太田） | 15 | 8.2 |
| ④ | 矢野勝彦（鳥取） | 14 | 15.5 |
| ⑤ | 大瓜知太郎（鳥取） | 14 | 14.7 |
| ⑥ | 林生浩二（鳥取） | 11 | 16.5 |
| ⑦ | 田信也（鳥取） | 11 | 11.7 |
| ⑧ | 竹鼓剛一（鳥取） | 10 | 22.0 |
| ⑨ | 渡辺慎太（鳥取） | 10 | 18.5 |
| ⑩ | 小野山（鳥取） | 10 | 15.2 |
| ⑪ | 田中義也（鳥取） | 9 | 16.2 |
| ⑫ | 穴田雅史（鳥取） | 8 | 24.2 |
| ⑬ | 佐藤織也（鳥取） | 8 | 22.6 |
| ⑭ | 坂田尚之（鳥取） | 8 | 7.6 |
| ⑮ | 森中良治（鳥取） | 6 | 15.1 |
| ⑯ | 矢武利治（鳥取） | 6 | 13.6 |
| ⑰ | 中健治（鳥取） | 4 | 15.5 |
| ⑱ | 武之賢治（鳥取） | 1 | 5.6 |

※同尾数の場合は最長寸で順位を決定

決勝大会、名人戦の競技委員長・伊達浩憲歴代キス釣り名人

2位・猪熊洋典選手（53・いすずキャスティングサーフ）「決勝戦は遠投でトラブルが続き泣きそうになったが、ポイントを手前に変更すると小さいながらも掛かってくれた」

3位・須田国博選手（55・脳内キスだらけ）「名人と1対1で勝負する夢をかなえたくて、入念に下見して臨んだ。うれしい3位だ」

伊達浩憲・競技委員長「魚がいると分かってもこの強風で沖を狙えず苦労した選手が多くいた。そんな状況下で手前を探って挑戦権を得た高井選手はさすがだ。名人戦の前半は両者とも近投でほぼ互角だったが、後半は田島名人が遠投で追加していった。その切り替えが勝負の明暗を分けたように思う」

## ふぐ名人Presents

## 第56期報知キス釣り名人戦

**鳥取・弓ケ浜**

キス釣り界のトップトーナメンターが集結するオールスター戦「第56回報知キス釣り選手権・SESSYA CUP」決勝大会が21日、鳥取・弓ケ浜で開催された。鳥取、徳島、福井の各予選を勝ち上がった選手やシード選手、主催者推薦選手、歴代名人・選手権者ら63人が参加した。選手権は高井純一選手（33）＝キス研岡山＝が優勝。続いて行われた「ふぐ名人Presents 第56期報知キス釣り名人戦」では、田島雅倫（あーろん）名人（23）＝うみかぜサーフ、キス研大阪＝が、13尾―5尾で高井選手の挑戦を退け、3期連続で名人位を獲得した。

※本大会及び名人戦は今回をもって終了しました。

両手に名人杯と名人位盾を持ち、2度目の防衛に胸を張る田島名人

「1年間 秋の弓ケ浜での戦い方を考え続けてきた」

**第56期名人　田島雅倫（23・舞鶴市）うみかぜサーフ・キス研大阪**

【主催】報知新聞社
【後援】全日本サーフキャスティング連盟
【協賛】㈱SESSYA
【特別協賛】ふぐ名人
【協力】㈱サンライン、㈱ささめ針、マルキュー㈱、キリンビバレッジ㈱、東邦産業㈱

# 2度目防衛

## 田島名人

◇田島名人の経過◇

| 投回 | 時間 | 尾数 |
|---|---|---|
| ① | 13:05 | 0 |
| ② | 11 | 0 |
| ③ | 18 | 4 |
| ④ | 23 | 0 |
| ⑤ | 27 | 0 |
| ⑥ | 33 | 0 |
| ⑦ | 39 | 0 |
| ⑧ | 42 | 0 |
| ⑨ | 50 | 1 |
| ⑩ | 56 | 0 |
| ⑪ | 14:01 | 1 |
| 前半の尾数 | | 6 |
| 場所交代 | | |
| ⑫ | 14:10 | 1 |
| ⑬ | 16 | 3 |
| ⑭ | 27 | 1 |
| ⑮ | 34 | 0 |
| ⑯ | 41 | 0 |
| ⑰ | 49 | 0 |
| ⑱ | 57 | 1 |
| ⑲ | 15:02 | 1 |
| 後半の尾数 | | 7 |
| 総尾数 | | 13 |

◇高井選手の経過◇

| 投回 | 時間 | 尾数 |
|---|---|---|
| ① | 13:05 | 1 |
| ② | 12 | 1 |
| ③ | 17 | 0 |
| ④ | 24 | 0 |
| ⑤ | 30 | 0 |
| ⑥ | 37 | 1 |
| ⑦ | 43 | 0 |
| ⑧ | 48 | 0 |
| ⑨ | 54 | 0 |
| ⑩ | 14:00 | 0 |
| 前半の尾数 | | 3 |
| 場所交代 | | |
| ⑪ | 14:08 | 0 |
| ⑫ | 16 | 0 |
| ⑬ | 26 | 0 |
| ⑭ | 32 | 0 |
| ⑮ | 41 | 2 |
| ⑯ | 48 | 0 |
| ⑰ | 53 | 0 |
| ⑱ | 15:00 | 0 |
| 後半の尾数 | | 2 |
| 総尾数 | | 5 |

しっかりとスタンスをとり遠投体勢を整える田島名人

### 今春から京大大学院生

長い緊張からやっと解放された。銀色の光を放つ名人杯を胸に抱き、ようやく白い歯を見せた田島名人。2時間の激闘を制し、2度目の防衛を果たした。「1年間、秋の弓ケ浜での戦い方を考え続けてきた。その結果が今日の釣りに結びついた」とビッグタイトルを守り抜いた喜びをかみしめた。

圧巻のパフォーマンスだった。場所を交代した後半、竿を替え、テンビンはデルナー33号、ハリは3・5号に取り換えた。前半の近投釣りから一変して、ターゲットは沖の魚だ。そして、ゆっくりと左手の人さし指にフィンガーガードを装着し、今回初の遠投に備えた。慎重にスタンスを確認し、投げた。

向かい風を切って飛んだ仕掛けは7色を越す地点に着水。そこからゆっくりとさびき、アタリを待った。すると、6色半で反応があり1尾を追加した。この1投で手応えを感じた田島名人は同じラインを攻め、3連を含む3投連続ヒット。ぐっと勝利をたぐり寄せた。

対戦相手の高井選手とは「毎日のようにLINEで釣りの話をしている」ほど親交が深い。情報の共有はもちろん、一緒に竿を並べては、釣技や仕掛けなどについての知識を高め合ってきた。手の内が知られているだけにやりづらさがあったのも事実だ。試合終了後には「また焼き肉に行こうね」と声をかけられ、はにかみながらうなずいた。

この春から京都大学大学院の「魚類心理学」研究室で魚の行動を学んでいる。試合に負けたら悔しさを表し、ストイックなまでに釣りを探求する。「どんな魚や海の状況でも、正確に合わせられるようにいろんな引き出しを増やしたい」と23歳。これからもビクトリーロードを進み続ける。

誰もが憧れ目指し、数々のドラマを生んだ「報知キス釣り名人戦」は、田島名人が第56期名人位に就き、56年にわたる長い歴史の幕を閉じた。（大塚　真哉）

### 試合状況

【選手権】　天候は曇り時々雨で、強い向かい風。体も感で風速5㍍を超すことも多々あり、次第に波が高くなった。1回戦は美保湾展望駐車場の本部前をセンターに、海に向かって右側をAブロック、左側をBブロックとし、それぞれ約1キロのエリアを設けた。抽選によってAに32人、Bに31人が入り、各8位タイまでの18人が決勝戦に進出。決勝戦のエリアはA、B併せた全域で行われた。試合は各2時間。

釣れたキスのサイズは5～27㌢。選手は8～6色（1色は25㍍）辺りに点在する魚を狙うか、3色～波口で散らばる魚を狙うかの選択を迫られた。強風の影響で遠投から近投に移行する選手が多いなか、1回戦Aブロックで田中義一選手（キス研大阪）は7色強の大遠投。3連を含む大型15尾を仕留めた。一方、瓜生浩二選手（同）は、3～1色の近場を徹底して攻め14尾を釣りあげた。全体では4～2色を投げ、釣果を伸ばした選手が多かった。

【名人戦】　「ホテルエリアワン境港マリーナ」前の浜で、午後1時5分から2時間行われた。約100㍍のエリアを二分し、1時間で場所を入れ替わる。晴れ間が現れたものの、一向に風、波は収まらなかった。加えて、海に向かって右側からゴミが押し寄せ、後半になると右側エリアは釣る範囲が徐々に狭くなってきた。

前半は、ジャンケンに勝った高井選手がエリア左側を選択。両者とも近投でキスを探り合った。1、2投目で1尾ずつ釣り、先手を取った高井選手だったが、田島名人の4連で逆転を許し、3尾差で前半を終えた。後半は田島名人が沖に照準を合わせ、7色を投げる遠投でキスを追加。一方、高井選手は漂うゴミに邪魔され、思うように釣果を伸ばせなかった。

◇お断り「釣り特報」は8面に掲載しています。